

Dime（ダイム） マニュアル

【改訂履歴】

V1.0	2019年10月12日
V2.0	2021年 1月10日
V3.0	2021年 5月20日
V4.0	2021年 6月10日
V4.1	2021年 6月12日
V4.2	2022年 6月06日
V4.3	2022年 11月17日
V4.4	2023年 2月20日
V4.5	2023年 7月13日
V5.0	2024年 3月10日
V5.1	2024年 5月10日
V5.2	2024年 7月06日
V5.21	2024年 7月15日
V5.22	2024年 7月28日
V5.3	2024年 8月16日

<目次>

1	ソフトウェアの概要.....	4
1. 1	ポータブル.....	4
1. 2	分かりやすく確実に状態が分かる.....	4
	(1) 通常の日本語入力状態表示の問題点.....	4
	(2) これまでの解決策.....	4
	(3) Dimeの解決策.....	4
	(4) 豊富なカスタマイズ.....	5
	(5) 一時停止と指定した窓での無効化.....	5
	(6) 日本語入力切り替えキーの統一.....	5
	(7) ART (AZIK+ローマ字単打).....	5
2	インストールとアンインストール.....	5
2. 1	インストール.....	5
2. 2	アンインストール.....	6
3	起動／終了.....	6
3. 1	動作環境.....	6
3. 2	起動.....	6
3. 3	終了.....	6
4	日本語入力状態の表示.....	7
4. 1	窓全体の色.....	7
4. 2	窓の枠の色.....	7
4. 3	テキストカーソルの色.....	8
4. 4	マークの表示.....	8
4. 5	音声による通知.....	9
5	ウィンドウフォーカスの表示.....	9
6	指定ウィンドウ除外.....	10
6. 1	除外方法.....	10
6. 2	除外の解除.....	10
7	日本語入力の切り替えキー.....	11
7. 1	CapsLockキー.....	11
7. 2	変換、無変換、Altキーによる切り換え.....	11
8.	ART (AZIK +ローマ字 単打).....	12
8. 1	AZIKとほぼ互換性がある.....	12
8. 2	ローマ字単打 (母音飛ばし).....	12
8. 3	Lの活用.....	13
8. 4	「ん」「っ」「ー」.....	13
	(1) 「ん」.....	13
	(2) 「っ」.....	13
	(3) 「ー」.....	13
8. 5	撥音.....	14
8. 6	二重母音.....	14

8. 7	ローマ字単打.....	15
(1)	子音の連続について.....	15
(2)	利用する子音.....	15
(3)	記号、スペースキー、Enterキー.....	15
(4)	FとJ.....	15
(5)	具体例.....	16
(6)	AZIKの特殊拡張との関係.....	16
(7)	Lの活用.....	17
①	V、Xの入力.....	17
②	単語登録.....	17
(8)	AZIK互換モード.....	18
①	「っ」.....	18
②	「ー」（長音）.....	18
③	撥音.....	18
④	二重母音.....	18
9	設定.....	19
9. 1	設定ファイル.....	19
9. 2	セクションと値.....	19
9. 3	色と透明度の指定方法.....	19
(1)	色の指定方法.....	19
(2)	透明度の指定方法.....	19
9. 4	IMEセクション.....	19
(1)	Trans.....	19
(2)	Color.....	19
(3)	Trans2.....	20
(3)	Color2.....	20
(4)	SizeRatio.....	20
(5)	Width.....	20
(6)	Offset.....	21
(7)	KeyDelay.....	21
(8)	CursorType.....	21
(9)	CColorOn.....	22
(1 0)	CColorOff.....	22
(1 1)	CaretColor.....	22
(1 2)	CaretTrans.....	23
(1 3)	CaretChar.....	23
(1 4)	CaretSize.....	23
(1 5)	CaretBlink.....	24
(1 6)	BlinkSpeed.....	24
(1 7)	CaretOffsetX CaretOffsetY.....	24
(1 8)	SmartCaret.....	25
(1 9)	ART.....	25

(20) Henkan.....	25
(21) MuHenkan.....	26
(22) LAlt.....	26
(23) RAlt.....	26
(24) Reverse.....	26
(25) ExcludeHotkey.....	26
(26) Exclude.....	26
9. 5 Keyセクション.....	27
(1) CapsLock.....	27
(2) Pause.....	27
(3) Reload.....	27
9. 6 Soundセクション.....	27
(1) SoundTime.....	27
(2) SoundFile.....	28
9. 7 AZIKセクション.....	28
AZIK.....	28
9. 8 Windowセクション.....	28
(1) FocusColor.....	28
(2) FocusTrans.....	28
(3) FocusWidth.....	28
(4) FrameBlink.....	28
(5) FrameBlinkSpeed.....	28
10 ART設定.....	29
11 トレイメニュー.....	30
12 ウイルス誤検知対応.....	30
13 最後に.....	31

1 ソフトウェアの概要

DimeはWindowsパソコンで日本語入力の状態を分かりやすく表示し、日本語入力の切り替えを簡単にできるようにするソフトです。また、ウィンドウの枠に色をつけることで、どのウィンドウにフォーカスがあるかを一目で分かるようにします。

1. 1 ポータブル

ポータブルなアプリでインストールすることなく、すぐに利用できます。

USB メモリなどでこのソフトウェアを持ち運ぶことにより、どのパソコンでもすぐに利用することができます。

1. 2 分かりやすく確実に状態が分かる

(1) 通常の日本語入力状態表示の問題点

Windows標準の日本語入力状態表示は、画面右下のタスクトレイに小さなアイコンで表示されるため、入力場所から目線を大きく移動する必要があります。目線を移動する必要があるため、日本語入力状態を確認することを怠り、間違った状態で入力してしまうことがあります。そのため改めて入力し直す必要があり、入力作業の効率を低下させるという問題点があります。

(2) これまでの解決策

このような日本語入力の状態表示の欠点を補うために、Windowsでの機能改善や、ツールがありますが、次のような問題があり完全な解決策にはなっていないようです。

- マウスポインターの近くに状態を表示する
マウスポインターを入力位置に近づけないと、やはり目線の移動が必要になる
- テキストカーソル付近に状態を表示する
最もスマートな方法ですが、アプリケーションによってはテキストカーソル付近に表示できないものがあり不完全
- 日本語入力の状態を切り替え時に表示し、一定時間後に表示が消える
切り替え時から時間が経ってしまうとタスクトレイを見ないと状態を確認できなくなる

(3) Dimeの解決策

Dimeでは、次のような方法でこれまで解決できなかった日本語入力の状態を完全に分かりやすく表示することができるようになりました。

- テキストカーソル付近に状態を表示する
テキストカーソルの位置を可能な限り多くのアプリケーションから取得できるようにし、ほぼすべてのアプリケーションでテキストカーソルの付近に状態を表示できるようにしました。（Windows標準のテキストカーソルインジケータよりも多くのアプリケーションで正しくテキストカーソルの位置を検出できます）

- 窓全体の色、窓の枠の色で知らせる
テキストカーソル付近に状態を表示できない場合は、窓全体の色または窓の枠の色を変更することにより、目線の移動をせずに日本語入力の状態を把握できるようにしました
また、窓全体の色はテキスト入力している間は変化しないため入力時にじゃまになりません

（４）豊富なカスタマイズ

窓の色、枠の色、枠の幅、透明度、窓を表示するまでの時間、窓の色の領域比率、枠のオフセット値、マークの文字、マークの点滅、点滅速度などのカスタマイズができ、自分の好みの設定で利用できます。

（５）一時停止と指定した窓での無効化

一時停止して、状態表示をしないようにできます。

また、ユーザーがアプリを指定して、特定のアプリではDimeの機能を無効にすることもできます。

（６）日本語入力切り替えキーの統一

Dimeを常駐させれば、キーボードの配列がJIS配列でもUS配列でもCapsLockを押すことで切り替えることができます。

さらに、変換、無変換、左Alt、右AltキーにIMEの切り替え機能を割り当てることができます。この場合、変換キーは日本語入力オン、無変換キーは日本語入力オフのように、日本語入力のオンとオフを別のキーに割り当てることにより、確実にのぞみ通りの日本語入力の状態をセットできるようにになります。

（７）ART（AZIK＋ローマ字単打）

ローマ字入力を効率よくする入力拡張です。AZIKをベースにローマ字単打などの拡張を行なっています。また、できるだけAZIK互換になるように設定することも可能です。

２ インストールとアンインストール

２．１ インストール

適当なフォルダを作成し、ダウンロードしたファイルを解凍して下さい。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①実行ファイル | dime.exe |
| ②初期設定ファイル | dime.ini |
| ③マニュアル | dimeマニュアル.pdf |

2. 2 アンインストール

Dimeをインストールしたフォルダごと削除して下さい。

3 起動／終了

3. 1 動作環境

Dimeは64bit版のWindows10およびWindows11で動作します。
32bit版のWindowsでは動作しません。

3. 2 起動

dime.exeをダブルクリックして実行して下さい。
Dimeが起動し、タスクトレイにDimeのアイコンが表示されます。



3. 3 終了

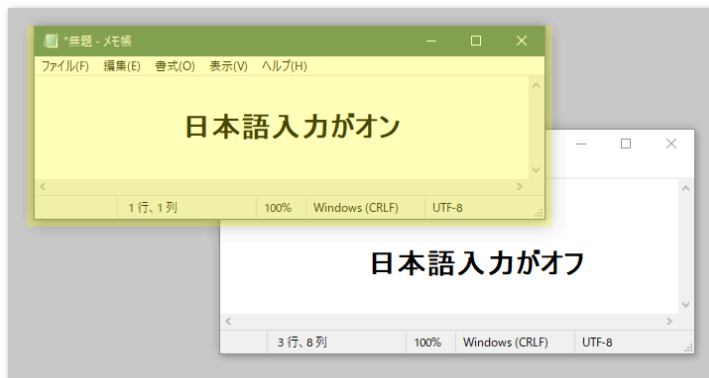
タスクトレイのアイコンを右クリックします。
以下のようにメニューが表示されます。
「終了」をクリックします。



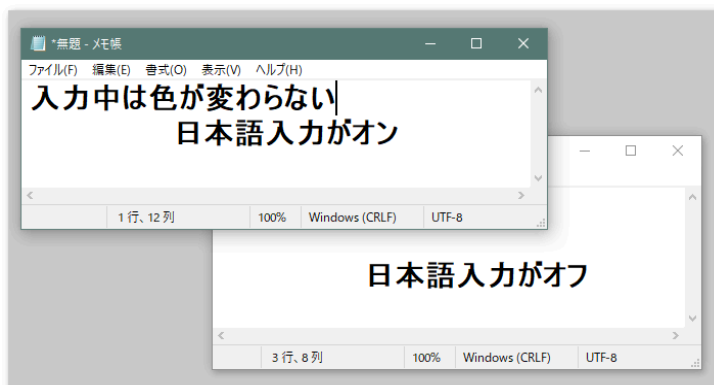
4 日本語入力状態の表示

4. 1 窓全体の色

日本語入力がオンの時に、窓全体の色を変えることができます。

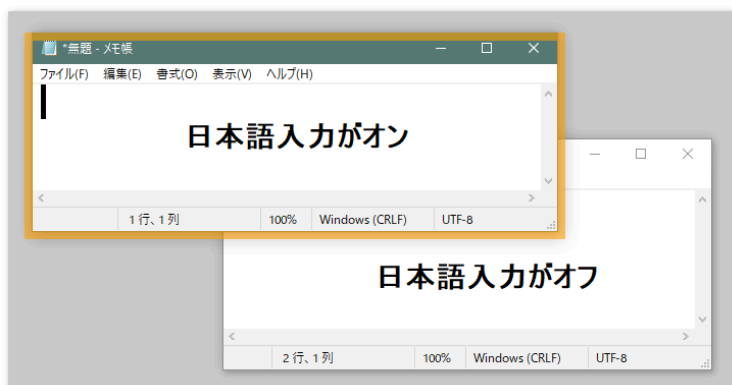


日本語入力がオンのときでも連続して入力している間はウィンドウの色を変えないので邪魔になりません。入力を中断して一定の時間（デフォルトは2秒）経過すると、窓の色は再び変化します。



4. 2 窓の枠の色

日本語入力がオンの時に、窓の枠の色を変えることができます。



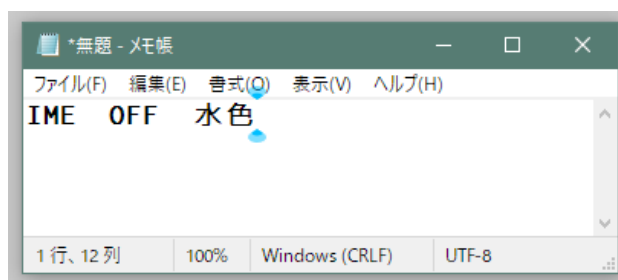
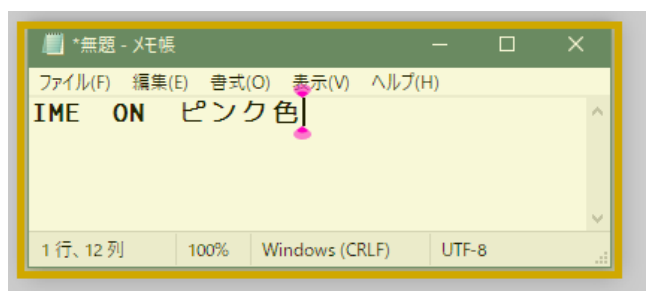
4. 3 テキストカーソルの色

Windows 10 May 2020 Update以降およびWindows11では「テキストカーソル」という機能が追加されています。

【設定】－【簡単操作】－【テキストカーソル】－【テキストカーソルインジケーターを有効にする】をオンにするとテキストカーソルが表示されるようになりますが、Dimeでは日本語入力の状態に応じて、このテキストカーソルの色を変えることができます。

Excel、Word、Visual Studio Codeなど、いくつかのアプリケーションではテキストカーソルが表示されません。

日本語入力：ON ピンク色 日本語入力：OFF 水色



4. 4 マークの表示

日本語入力がオンのとき、テキストカーソル付近にマークを表示することができます。



上図の例では、テキストカーソルの右上に小さな赤い●が表示されています。（マークの種類や大きさ、表示位置、色などをカスタマイズできます）

LibreOfficeやGoogleドキュメントなど一部のアプリケーションで文字入力していないときにテキストカーソルの位置を把握できないため表示することができませんが、それ以外の場合は正し

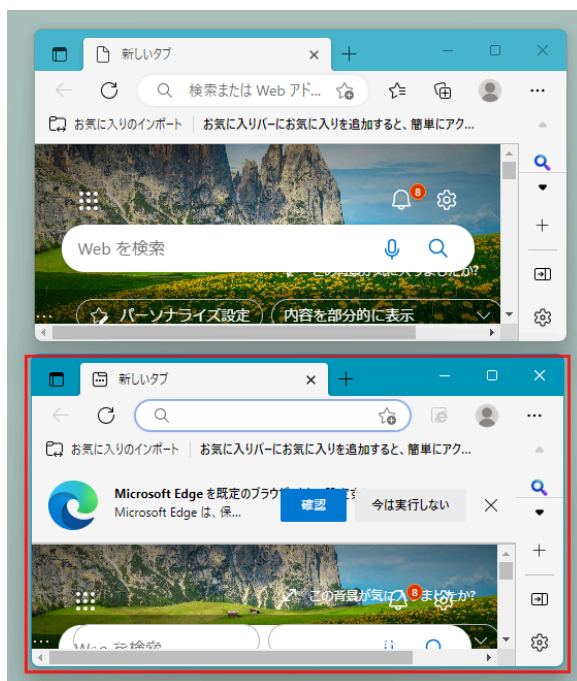
く動作します。また、テキストカーソルの位置が把握できない場合でも窓全体の色や窓の枠の色を変更することにより、どのような場合でも日本語入力の状態を確実に把握することができます。

4. 5 音声による通知

日本語入力がオンのとき、指定した音声を鳴らして日本語入力がオンであることを通知できます。

5 ウィンドウフォーカスの表示

フォーカスしているウィンドウが分かりやすくなるように、フォーカスしているウィンドウの窓枠に色を付けることができます。下図の例では、下側のEdgeにフォーカスがあるため窓枠の色が赤になっています。（枠の色と太さ、透明度をカスタマイズできます）



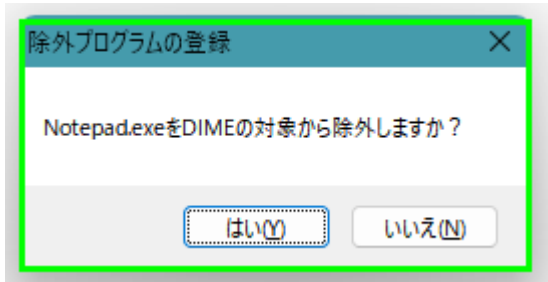
6 指定ウィンドウ除外

指定したウィンドウをIME状態表示の対象から除外することができます。

6. 1 除外方法

除外するウィンドウを指定するには、除外したいウィンドウにフォーカスして特定のキーの組み合わせを押します。（デフォルトではControl+Shift+E）

以下のような確認ダイアログが表示されます。



この例ではメモ帳（Notepad.exe）を除外対象にする場合です。このようにキーを押すと、そのウィンドウを実行しているプログラムの名前が表示されます。

「はい」をクリックすると、その後はIME状態表示の対象外になります。

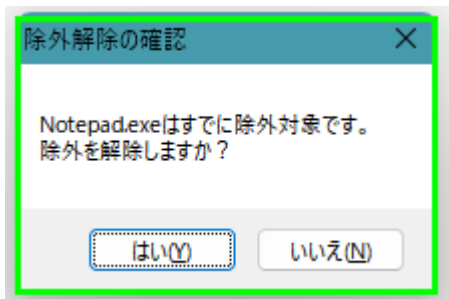
この指定は、プログラムを指定するので、同じプログラム（この場合はメモ帳）がいくつか開いていれば、すべてのメモ帳がIME状態表示の対象外になります。

また、この指定は設定ファイルに記憶されるので、除外を解除しない限り常にIME状態表示の対象外のままになります。

6. 2 除外の解除

除外を解除して再びIME状態表示の対象にするには、除外を解除したいウィンドウにフォーカスして特定のキーの組み合わせを押します。（デフォルトではControl+Shift+E）

以下のような確認ダイアログが表示されます。



「はい」をクリックすると除外は解除され、再びIME状態表示の対象となります。

7 日本語入力の切り替えキー

7. 1 CapsLockキー

Windows10の場合は標準で日本語入力の切り替えはCapsLockキーを押すことで切り替えることができます。（JIS配列キーボードの場合）

US配列のキーボードでは、Shift+CapsLockを押して日本語入力を切り替えることができますが、このようにJIS配列とUS配列により操作が違うので、両方の配列のキーボードを使う場合は混乱することがあります。

Dimeを使えば、キーボードがJIS配列の場合でもUS配列の場合でもCapsLockキーを押すことで切り換えることができるようになります。

ただし、US配列キーボードの場合は、Shift+CapsLockで大文字固定（CapsLock）にできないので、Dimeの設定ファイルで指定したキーで大文字固定するように設定できます。

JIS配列キーボードではShift+CapsLockで大文字固定になりますが、別途初期設定ファイルで指定したキーでもCapsLock（大文字固定）になります。

7. 2 変換、無変換、Altキーによる切り換え

Windows 10 May 2020 Update 以降では、変換・無変換キーにそれぞれ日本語入力のオン・オフの機能を割り当てられるようになりました。

しかし、MS-IMEでしか設定ができないこと、共有パソコンでは設定を変えると他の人に迷惑になることがあるなどの問題があります。

そこでDimeでは独自に変換・無変換キーに日本語入力のオン・オフを割り当てられるようにし、MS-IME以外でも使えるようにしました。

また、US配列キーボードでは変換・無変換キーがありませんので、右Alt、左Altキーに日本語入力のオン・オフを割り当てられるようにしました。

この場合、Altキー単独押しでは日本語入力のオン・オフ切替になり、Altキーと他のキーを同時押しすると、本来のAltキーの機能が働きます。

例えば、Alt+F4とすれば、通常のウィンドウを閉じる操作になります。

8. ART (AZIK + ローマ字 単打)

ARTは、AZIKをベースとしてローマ字単打（母音飛ばし）を併用できる、以下のような特徴を持つローマ字日本語入力の拡張です。

（AZIKについては「[AZIK総合解説書](#)」をご覧ください。）

8. 1 AZIKとほぼ互換性がある¹

AZIKのキーと互換性が高く、AZIKからの移行が比較的簡単です。

以下、AZIKの撥音、二重母音などとの違いは5つです。

- ・「っ」は「;」ではなく「x」
- ・長k音（ー）は「:」ではなく「v」
- ・k撥音「いん」は「k」ではなく「v」
- ・撥音「えん」は「d」ではなく「f」
- ・二重母音「うう」は「h」ではなく「c」

8. 2 ローマ字単打（母音飛ばし）

ローマ字単打とは、学習コストが低く（覚えやすく）しかも打鍵数をかなり減らせることができる入力拡張機能です。

子音の次に子音が続くときに前の子音の後に自動的に母音を追加されるという機能です。

分かりにくいので具体例で説明します。

「します」を入力するには「smsu」と打鍵します。

「s」（子音）の次に「m」（子音）が続いているので、「s」の後に自動的に母音の「i」が追加され「し」となります。

つぎに「m」（子音）の後に「s」（子音）が続いているので、「m」の後に自動的に母音の「a」が追加され「ま」となります。

追加される母音は「s」の場合は「i」、「m」の場合は「a」と異なりますが、これは、ある子音の後で最も頻度が高い母音を追加しているためです。

ローマ字単打は、通常2打鍵を1打鍵で入力できるので、適用された場合は50%の打鍵削減率になります。

AZIKの二重母音や撥音では「かい」と入力する場合「kai」が「kq」となるので33%の打鍵削減率ですので、ローマ字単打が非常に効果的であることが分かります。

¹ AZIK互換モードにすれば、一部を除きほぼAZIKと互換になります。

8. 3 Lの活用

「l」は、ローマ字入力では「ぁ」（小文字の「あ」）などを入力するときに「la」と打鍵するようときにしか使われません。

ARTでは「L」+子音に任意の文字列を登録することができ、さらに効率的な入力が可能になります。

8. 4 「ん」「っ」「ー」

これらの入力は、頻繁にあるにもかかわらず、打鍵数が多かったり、打ちにくい場所のキーになっています。

(1) 「ん」

AZIKと同じく「Q」の1打鍵で「ん」が入力できます。

(2) 「っ」

AZIKでは「;」（セミコロン）になっていますが、ARTでは「X」で「っ」になります。

「X」を入力したいときは、「LX」と入力します。

(3) 「ー」

AZIKでは「:」（コロン）になっていますが、ARTでは「V」で「ー」になります。

「V」を入力したいときは、「LV」と入力します。

「っ」「ー」については、JIS配列でもUS配列でも影響が無いことを考慮してアルファベットキーに割り当てています。

AZIKの場合「;」と「:」になっていますが、JIS配列とUS配列のキーボードで配置が異なるので、両者を使うユーザーには影響があります。

特に「っ」は、ARTのローマ字単打を使うには最初に覚える必要があります。

また、「v」による長音（ー）は非常に入力しやすいので、早めに習得することをお勧めします。（通常のマイナスキーも使えるので必須ではありません）

「ん」「ー」については、従来の「NN」「ー」キーでも入力できるので、徐々に覚えていけばよいです。

8. 5 撥音

「あん」「いん」「うん」「えん」「おん」の5つの撥音については「いん」と「えん」以外はAZIKと同じです。

- ・「AN」 「Z」（AZIK互換）
 かん（KANN）は「KZ」になります。
- ・「IN」 「V」（AZIKでは「K」）
 きん（KINN）は「KV」になります。
- ・「UN」 「J」（AZIK互換）
 くん（KUNN）は「KJ」になります。
- ・「EN」 「F」（AZIKでは「D」）
 けん（KENN）は「KF」になります
- ・「ON」 「L」（AZIK互換）
 こん（KONN）は「KL」になります。

「IN」および「EN」を他の子音に割り当てたのは、「K」と「D」をローマ字単打で利用するためです。

【使用例】

換算（かんざん） → KZZZ
真剣（しんけん） → SVKF
検診（けんしん） → KFSV

8. 6 二重母音

「あい」「えい」「うう」「おう」の4つの二重母音については「うう」以外はAZIKと同じです。

- ・「あい」 「Q」（AZIK互換）
- ・「えい」 「W」（AZIK互換）
- ・「うう」 「C」（AZIKでは「H」）
- ・「おう」 「P」（AZIK互換）

「H」を「C」に割り当てたのは、ローマ字単打で「H」を利用するためです。

【使用例】

空港（くうこう） → KCKP
総数（そうすう） → SPSC
傾向（けいこう） → KWKP

8. 7 ローマ字単打

(1) 子音の連続について

ローマ字は、子音+母音または母音が連続するのが基本です。

子音が連続するのは「きゃ」(kya)や「しゃ」(sha)などの拗音と「しっかり」(sikkari)の促音です。

ここに注目して、子音+子音で入力を効率化するために二番目の子音に撥音や二重母音を割り当てたのがAZIKの着目点でした。

ただ、促音は連続した同じ子音を使用するので、すべての子音を使ってしまうという不具合があります。

したがってAZIKでは「っ」を入力するために特別なキー(;)を指定しています。

ローマ字単打も同じ考え方で、子音+子音の場合に、最初の子音の後に母音を追加するという方式で入力を効率化します。

(2) 利用する子音

子音+子音の最初の子音はすべての子音を使います。

2番目の子音はAZIKで利用しているもの以外を使います。

具体的には以下の通りです。

使用する2番目の子音：B C D F G H K M N P R S T V W Y Z

1番目の子音に追加される母音は以下の表の通りです。

1番目子音	B	C	D	G	H	K	M	N	P	R	S	T	V	W	Y	Z
追加母音	a	a	e	a	a	a	a	a	a	u	i	a	a	a	a	i

ほとんどの子音は「a」(あ)が追加されますがD, R, S, Zは例外になり、De(で) Ru(る) Si(し) Zi(じ)となります。

これは、各子音の次に現れる母音の頻度の高いものを選択したからです。

(3) 記号、スペースキー、Enterキー

子音の次に記号(!"#\$%&()@、。・：*＝；<>?など)、スペースキー、Enterキーが続くと、母音が追加されます。

なお、スペースキーでは変換、Enterキーでは確定の動作も行なわれます。

(4) FとJ

FとJは非常に入力しやすい位置にあるキーですが、ローマ字入力では「ふぁ」「じゃ」などそれほど利用頻度が高くありません。

ARTでは、Fを2回連打すると「と」、Jを2回連打すると「の」と使用頻度の高い文字を割り当てました。

利用例：

ことなる。(KOFFNR。)このまま、(KOJJMM、)

(5) 具体例

ローマ字単打が連続する具体例を以下に紹介します。

しかし、(SKS、)または、(MTH、)しました。(SMST。)
私が(WTSG+スペースキー)なかなか(NKNK+Enterキー)
したがって(STGXTE)でしたが、(DSTG、)やはり(YHRI)

よく使うパターンを覚えて、ひとかたまりで入力するようにするのが、コツです。

(6) AZIKの特殊拡張との関係

ローマ字単打は、AZIKの特殊拡張とよく似ています。
たとえば、ST(した)WT(わた)NR(なる)MT(また)
は、AZIKとローマ字単打では全く同じキーを使います。

母音を抜くということでは、AZIKの特殊拡張とローマ字単打は同じ考え方ですが、ローマ字単打は規則性があること、自分でよく使うパターンをだんだん増やしていける点が、異なります。

(7) Lの活用

ARTでは、子音+子音を活用するため、AZIKをベースとしてローマ字単打などの機能を拡張しました。

子音の中で「L」は特殊なキーで、通常は小文字の母音
「あ (LA) い (LI) う (LU) え (LE) お (LO)」
を入力するために使われます。

ARTでは、L+子音を次のように拡張します。

①V、Xの入力

「V」と「X」は、通常のローマ字入力ではほとんど利用しないので、ARTでは「V」は「ー」、
「X」は「っ」に割り当てました。

ほとんど利用しないといっても「ヴァイオリン」「ヴェニス」などのように「ヴ」は時々入力する必要があります。

「X」は「ぁ」(XA)のように小さな母音を入力する場合に使用しますが、これは(LA)で入力するほうが多いです。

しかし、日本語入力時に文字通り「x」と入力したい場合もあるので皆無とはいえません。

そこで「v」「x」はそれぞれ「LV」「LX」で入力できるようにしました。

②単語登録

他の子音は、L+子音にユーザーが自由に単語を登録できるようにしました。
頻度の高い単語を登録することで、入力効率をさらに上げることが可能になります。

初期設定は以下の通りです。

LB：場合 LC：注意 LD：どのよう LF：ありがとう
LG：月 LH：人 LJ：ございま LK：考え LL：思いま
LM：致しま LN：年 LP：パソコン LQ：ください LR：了解
LS：したがって LT：ありま LW：私 LY：やりま LZ：全体

単語登録は「art.ini」ファイルで登録します。

（８）AZIK互換モード

初期設定ファイルでAZIK互換モードにすると、以下の通りにキーがAZIK互換となり、ほぼAZIKと同等の操作になります。

また、この場合でもARTのローマ字単打は有効のままです。

①「っ」

セミコロン（；）になります。

②「ー」（長音）

コロンの（：）になります。

③撥音

「IN」 「K」 になります。

「EN」 「D」 になります。

④二重母音

「UU」 「H」 になります。

9 設定

9. 1 設定ファイル

Dimeの実効ファイルと同じフォルダにある初期設定ファイル「dime.ini」を編集することによりDimeの動作や表示をカスタマイズすることができます。

9. 2 セクションと値

設定ファイル「dime.ini」にはセクションがあり、セクションごとに値を設定するという構造になっています。セクションは[セクション名]のように[]で囲まれた文字列です。以下のセクションがあります。

[IME]	IMEに関する設定
[Window]	窓に関する設定
[KEY]	キーに関する設定
[Sound]	音声に関する設定
[AZIK]	AZIKに関する設定

9. 3 色と透明度の指定方法

(1) 色の指定方法

Dimeの設定ファイルの中で色を指定する場合は、RGB（赤緑青）の三原色を6桁の16進数の値で指定します。

例えば赤であれば FF0000（赤色がFFで最大値）となります。

緑であれば00FF00（緑色がFFで最大値）となります。

青であれば00FF00（青がFFで最大値）となります。

(2) 透明度の指定方法

Dimeの設定ファイルの中で透明度を指定する場合は、0から255の数値で指定します。

0は完全に透明で255は完全に不透明になります。

9. 4 IMEセクション

(1) Trans

日本語入力の状態を窓全体で表示するときの透明度を指定します。

・デフォルト値 50

(2) Color

日本語入力の状態を窓全体で表示するときの色を指定します。

- ・デフォルト値 0000FF

(3) Trans2

日本語入力の状態を窓枠で表示するときの透明度を指定します。

- ・デフォルト値 200

(3) Color2

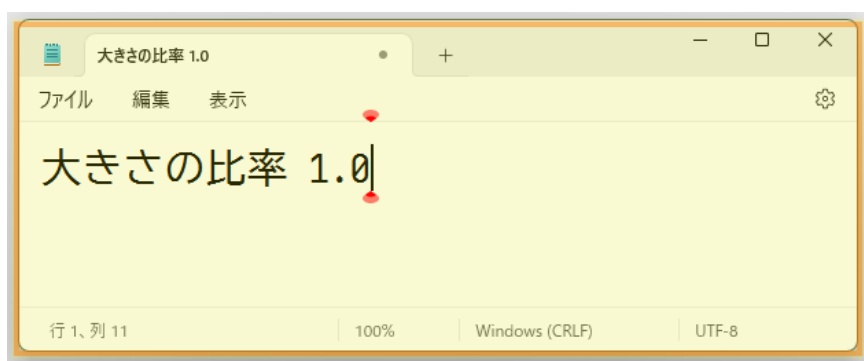
日本語入力の状態を窓枠で表示するときの色を指定します。

- ・デフォルト値 FFA000

(4) SizeRatio

日本語入力の状態を窓全体で表示するときの窓の大きさを比率で指定します。

大きさの比率1.0の場合



大きさの比率0.8の場合



- ・デフォルト値 0.95

(5) Width

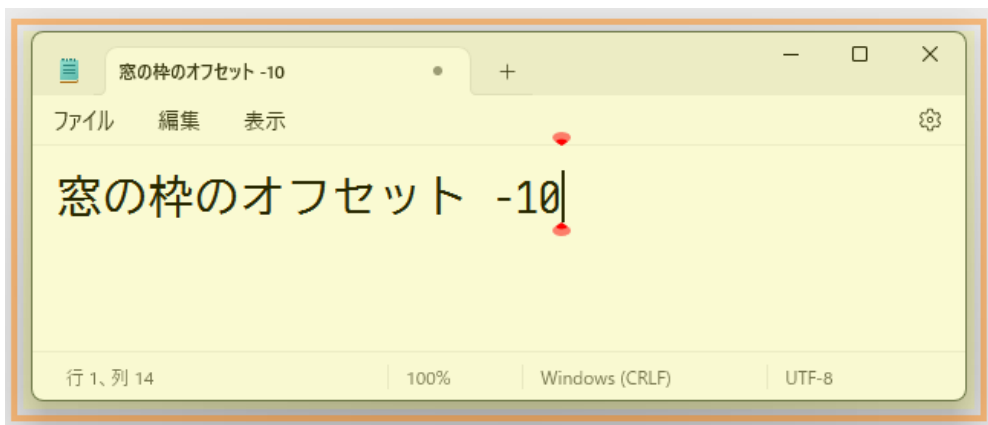
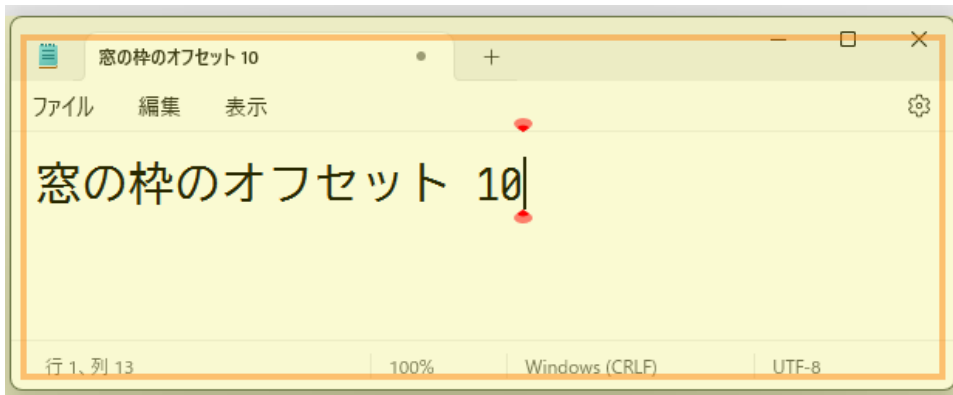
日本語入力の状態を窓枠で表示するときの枠の太さをピクセルで指定します。

- ・デフォルト値 3

(6) Offset

日本語入力の状態を窓枠で表示するときの枠のオフセットをピクセルで指定します。

通常は窓の枠はウィンドウの枠と同じ位置に表示されます。窓の枠のオフセットを設定することにより、窓の枠の位置をウィンドウの枠の内側に設定したり外側に設定することができます。



- ・デフォルト値 0

(7) KeyDelay

キー入力を中断してから窓の色を変更するまでの時間をミリセカンドで指定します。

- ・デフォルト値 2000 (2秒)

(8) CursorType

テキストカーソルインジケータのテキストカーソルの形状を指定します。

値1, 2, 3, 4, 5の中から指定し1:小さい → 5:大きいとなります。

- ・ 値を1にすると形状は一番小さく、5にすると一番大きくなります。

CursorType=1 の場合

テキスト カーソル インジケータのプレビュー

テキスト カーソル インジケータを使用して、テキスト カーソルをテキストの渦において目立たせることができます。次に示すのが、変更のプレビュー。

CursorType=5 の場合

テキスト カーソル インジケータのプレビュー

テキスト カーソル インジケータを使用して、テキスト カーソルをテキストの渦において目立たせることができます。次に示すのが、変更のプレビュー。

- ・デフォルト値 2

(9) CColorOn

日本語入力がオンのときのテキストカーソルインジケータの色を指定します。

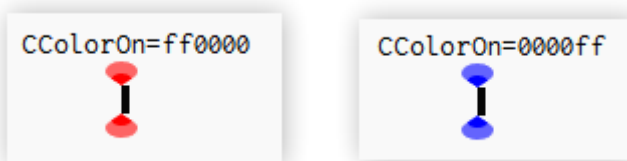
- ・デフォルト値 FF0000

(1 0) CColorOff

日本語入力がオフのときのテキストカーソルインジケータの色を指定します。

- ・デフォルト値 0000FF

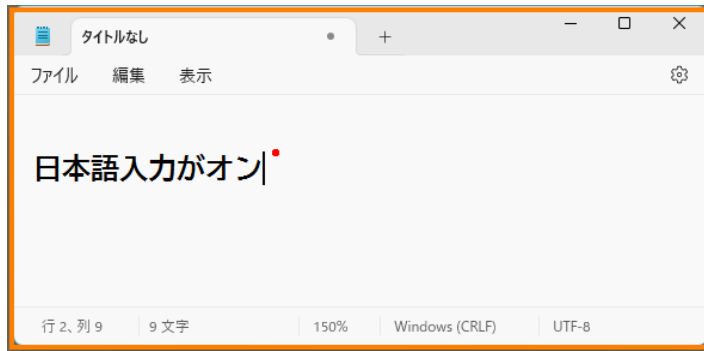
設定例



(1 1) CaretColor

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークの色を指定します。

以下の例では赤（FF0000）に設定しています。



- ・デフォルト値 FF0000

(1 2) CaretTrans

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークの透明度を指定します。

- ・デフォルト値 150

(1 3) CaretChar

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークの文字を指定します。

文字列を指定することもできます。以下の例では「日本語」という文字列を指定しています。

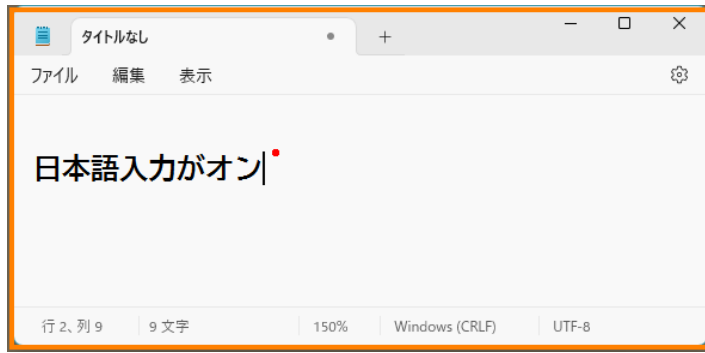


- ・デフォルト値 ●

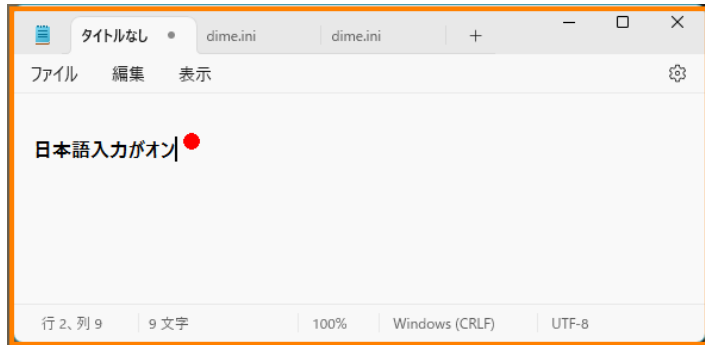
(1 4) CaretSize

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークの文字のサイズを指定します。
数字を大きくすると文字が大きくなります。

例：CaretSizeが6のとき



CaretSizeが12のとき



- ・デフォルト値 8

(15) CaretBlink

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークを点滅させるかどうかを指定します。1で点滅し、0にすると点滅はせず点灯になります。

- ・デフォルト値 1

(16) BlinkSpeed

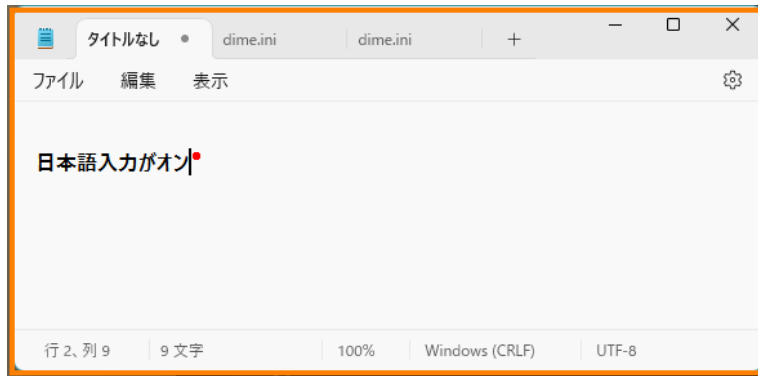
日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークが点滅するときの速度を指定します。数字が大きくなるほど速く点滅します。

- ・デフォルト値 50

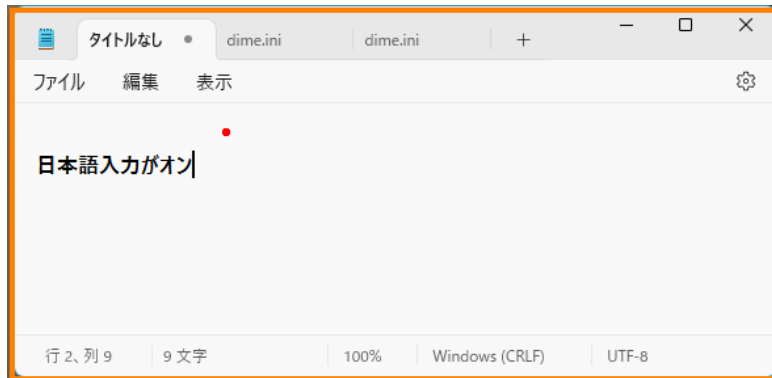
(17) CaretOffsetX CaretOffsetY

日本語入力がオンのときのキャレット付近に表示するマークの表示位置をピクセル単位で指定します。X方向は右方向が+、Y方向は下方向が+になります。

例：CaretOffsetX=0 CaretOffsetY=0の場合



CaretOffsetX=20 CaretOffsetY=-20の場合



- ・デフォルト値 CaretOffsetX 5
- ・デフォルト値 CaretOffsetY -5

(18) SmartCaret

日本語入力がオンのとき、キャレットが表示できるときに窓全体の色を表示するかどうかを指定します。この値が1のときは、キャレットが表示できるときには窓全体の色は表示しないようになります。0のときは、キャレットが表示できないに関わらず窓全体の色は表示されます。

- ・デフォルト値 1

(19) ART

ART (AZIK Romaji Tanda) を有効にするかどうか

1にするとARTが有効になる

- ・デフォルト値 0

(20) Henkan

変換キーに日本語入力のオン・オフを割り当てる

ON：日本語入力をオンにする（変換キー自体の機能は生きている）

OFF：日本語入力をオフにする

無し：変換キーのまま

- ・デフォルト値 無し

(21) MuHenkan

変換キーに日本語入力のオン・オフを割り当てる

ON：日本語入力をオンにする（無変換キー自体の機能は生きている）

OFF：日本語入力をオフにする

無し：無変換キーのまま

・デフォルト値 無し

(22) LAlt

LAltキー（左Altキー）に日本語入力のオン・オフを割り当てる

ON：日本語入力をオンにする OFF：日本語入力をオフにする

無し：Altキーのキーのまま

・デフォルト値 無し

(23) RAlt

RAltキー（右Altキー）に日本語入力のオン・オフを割り当てる

ON：日本語入力をオンにする OFF：日本語入力をオフにする

無し：Altキーのキーのまま

・デフォルト値 無し

(24) Reverse

状態表示を逆転させます。1にすると逆転し、日本語入力がオフのときに色がついたり枠が表示されるようになります。

・デフォルト値 0

(25) ExcludeHotkey

特定のウィンドウをIME状態表示の対象にする、対象を解除するキーを指定します。

シフトキーなどの修飾キーの指定は以下の通り

+：シフトキー

^：コントロールキー

!：Altキー

#：Windowsキー

・デフォルト値 ^+e (Control+Shift+e)

(26) Exclude

特定のウィンドウをIME状態表示の対象にするプログラムの名前を指定します。通常はキーを押すことで指定するので直接指定する必要はありませんが、プログラムの名前が分かっているとき

には直接プログラム名を指定することもできます。複数のプログラムを指定するときは「,」で区切ります。

- ・デフォルト値 無し

9. 5 Keyセクション

(1) CapsLock

CapsLock（常に大文字）にするキーの設定
シフトキーなどの修飾キーの指定は以下の通り

- + : シフトキー
- ^ : コントロールキー
- ! : Altキー
- # : Windowsキー

例えばソフトキー+コントロールキー+Aの場合は
+^a
と記述します。

- ・デフォルト値 ^#+F7 (Control+Win+Shit+F7)

(2) Pause

IMEの状態表示を一時停止するためのショートカットキーを指定します。
修飾キーの指定はCapsLockと同じです。

- ・デフォルト値 ^+!s (Control+Shift+Alt+S)

(3) Reload

設定ファイルを再読み込みして起動しなおすためのショートカットキーを指定します
修飾キーの指定はCapsLockと同じです。

- ・デフォルト値 ^+!d (Control+Shift+Alt+D)

9. 6 Soundセクション

(1) SoundTime

日本語入力がオンになり、音が鳴るまでの時間（秒）
0またはマイナスにすると音は鳴りません。

- ・デフォルト値 0

(2) SoundFile

日本語入力がオンのときに鳴らす音声ファイルを指定します。音声ファイルは「wav」を指定してください。

・デフォルト値 無し

9. 7 AZIKセクション

AZIK

1：AZIK互換モードになる 0：AZIK互換モードは無効になる

・デフォルト値 0

9. 8 Windowセクション

(1) FocusColor

フォーカスしているウィンドウの窓枠の色を指定します。

・デフォルト値 00FF00

(2) FocusTrans

フォーカスしているウィンドウの窓枠の色の透明度を指定します。

・デフォルト値 150

(3) FocusWidth

フォーカスしているウィンドウの窓枠の色の幅を指定します。

・デフォルト値 3

(4) FrameBlink

ウィンドウの窓枠を点滅させるかどうかを指定します。

1で点滅し、0にすると点滅はせず点灯になります。

・デフォルト値 0

(5) FrameBlinkSpeed

ウィンドウの窓枠が点滅するときの速度を指定します。数字が大きくなるほど速く点滅します。

・デフォルト値 50

10 ART設定

ART用設定ファイル「art.ini」により、L+子音の単語を登録できます。

セクション	キー	説明	デフォルト
LString	子音	ARTが有効なとき、「L」の次にアルファベットを入力したときに、このキーで登録された文字列が出力される。 【例】 b=basho と設定すると、キー入力「lb」で「basho」が入力される。	b=baai c=chuui d=donoyou f=arigatou g=tuki h=hito j=gozaima k=kanngae m=itasima n=nenn p=pasokonn q=kudasai r=ryukai s=sitagatte t=arima w=watasi y=yarima z=zenntai

1 1 トレイメニュー

タスクトレイのアイコンを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。



- ①バージョン情報
- ②クリックすると一時的に窓の色、枠の色の表示を停止します。
もう一度クリックすると窓の色、枠の色が表示されます。
- ③設定ファイルを再度読み込んで反映します。
設定ファイルを変更したときに、すぐに反映するときに使用します。
- ④設定ファイルをメモ帳で開きます。
- ⑤日本語入力がオンのときに鳴らす音声ファイルを指定します。
- ⑥Dimeを終了します。

1 2 ウイルス誤検知対応

2024年7月ごろからWindows Defenderによるウイルス誤検知によりウイルスと判定されてファイルが削除されるという問題が発生しました。

その対応のためDimeを64bit版にすることで対応しました。したがって32bit版のWindowsOSでは動作しません。

1 3 最後に

このソフトに関するご感想、ご意見、ご要望、バグなどありましたら、下記までご連絡ください。

製作者 paddyleaf

e-mail padyleaf@gmail.com

HP <https://www.dulunoj.com/>